

株主の皆様とのコミュニケーションツール

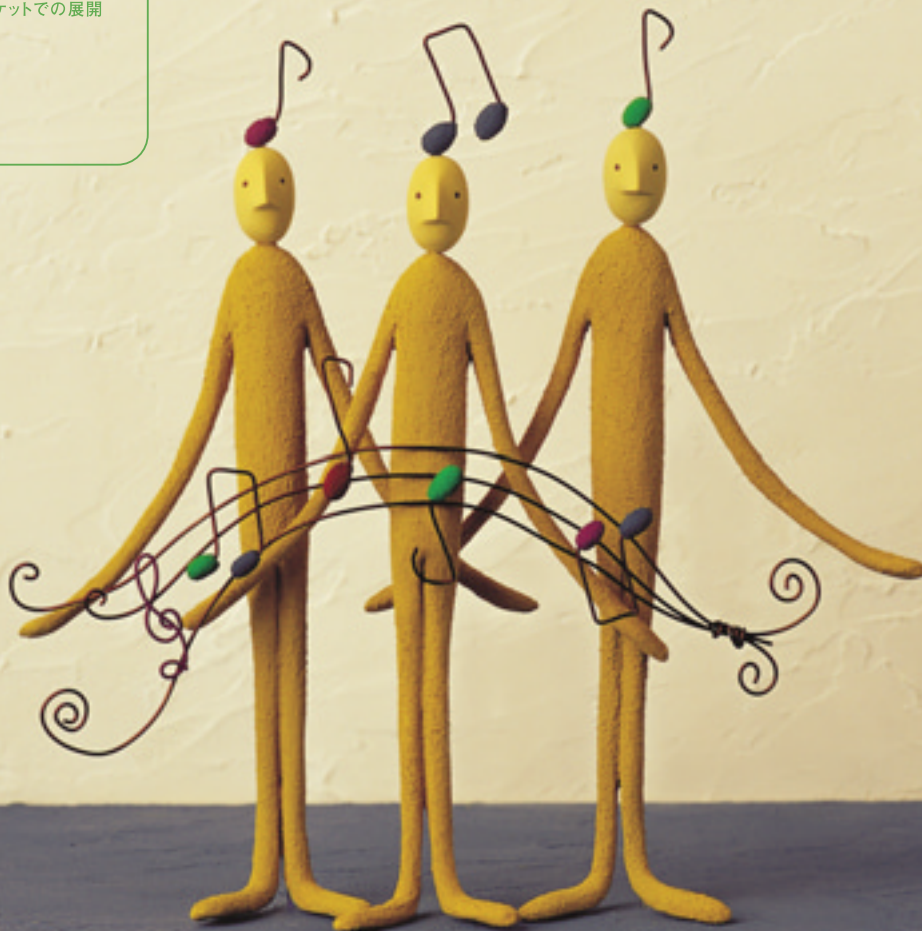
クラレ通信

CONTENTS

- 1・・・会社概要
- 2・・・株主の皆様へ
- 3・・・[特集1]クラレのマーケットイン戦略と戦略領域
- 5・・・[特集2]ITマーケットでの展開
- 7・・・[特集3]環境関連マーケットでの展開
- 9・・・クラレトピックス
- 11・・・財務情報
- 13・・・株式情報
- 14・・・アンケート
- 巻末・・・株主メモ

第124期 中間事業報告書

2004年4月1日～2004年9月30日



株式会社 クラレ

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はクラレグループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

当中間期（二〇〇四年四月一日～二〇〇四年九月三日）の経営環境は、中国をはじめとする外需の増加に伴う輸出の好調等により、国内経済は好調に推移した一方、急激な原燃料価格の高騰、IT関連製品需要の調整、米国、中国での景気減速懸念等、先行きに不透明感が広がりました。こうした中、クラレグループは、国際競争力のある事業の拡大と低採算事業の再構築を進め、原燃料価格の製品価格への転嫁とさらなる合理化を推進してまいりました。この結果、当中間期の連結業績は、売上高七五六億円、営業利益二六七億円、経常利益二五九億円、中間純利益九八億円と、三期連続の増収・増益（営業利益、経常利益）を果たし、これらの業績数値の全てで、一九九八年に中間連結決算を開始して以来の過去最高を更新することができました。

代表取締役社長 和久井 康明



クラレグループは、二〇〇五年度を最終年度とする五カ年の中期経営計画「G'21」を推進中ですが、その中で注力してきた企業体質強化とコア事業の成長戦略が成果を現し、今般の原燃料価格急騰のような逆風を跳ね除ける企業力が備わってきました。体質強化では、①事業ポートフォリオの改善 ②繊維事業のリストラクチャリング ③コストダウンの推進を順調に進めました。また、成長戦略では、①マーケットイン戦略の推進 ②大型投資の実施とグローバル市場での拡大 ③グローバル競争力を支える技術力のブラッシュアップを進展させてきました。この十一月に買取契約を結んだ欧州のPVB（ポリビニルブチラル）フィルム事業も、酢ビ・ポバール系事業のリーディングカンパニーとして、グローバルな事業拡大と一貫生産体制によるシナジー効果を狙っていくものです。こうした取り組みにより、二〇〇五年度で売上高四〇〇億円、営業利益四〇〇億円、ROA八%以上という「G'21」の目標値は、確実に射程圏内に入ってきたと考えています。

当二四期（二〇〇四年四月一日～二〇〇五年三月三日）の通期業績は、売上高三六〇〇億円、営業利益三三〇億円、経常利益三三〇億円、当期利益一八〇億円と、いずれも過去最高を予想しています。

当中間期の配当金につきましては、前中間期から二円増配し、五円五〇銭とさせていただきます。

なお、この二〇月に東京の本社機能を拡充し、名実共に東京本社・大阪本社の両本社制を確立いたしました。国内最大のマーケットと情報拠点がある東京における経営活動を強化し、国際的な存在感をさらに高めていきたいと思っております。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇〇四年十二月

クラレのマーケット戦略と戦略領域

現在進行中の中期経営計画「G・21」(二〇〇一年度～二〇〇五年度)は、二〇〇五年度に売上高四〇〇〇億円、営業利益四〇〇億円、ROA 8%以上を目標に掲げています。事業の「選択と集中」による収益力の向上に努めるとともに、資産の効率化を進めてきた結果、二〇〇五年度、ほぼ計画線に沿った進捗状況を示しています。しかし、為替や原燃料価格、顧客や市場構造、さらには国際情勢など、この四年間で外部環境はめまぐるしく変化し

ています。こうした激しい変化の中で、その影響を最小限に止め、更なる成

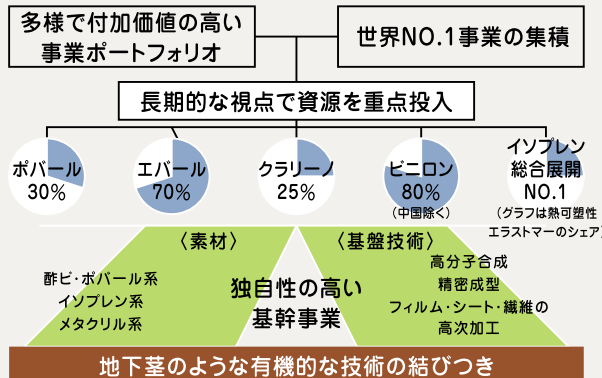
長を目指すため、「G・21」ではマーケットイン戦略を推進しています。

世界シェアNO.1の事業

「G・21」は、クラレグループが、「21世紀の世界的な競争の中で勝ち残り、持続的に発展していく」ために何をなすべきかを考え、策定しました。クラレグループには、ポパール、エパール、ヘクラ

リン、ビニロン、イソプレンケミカルという五つの世界NO.1事業があります。この五つの事業で、連結売上高の約50%、営業利益の約70%を占めています。これらの事業は国際競争力を有する「基幹事業」と位置付け、重点的に投資を行い拡大戦略を進めています。

独自技術による世界NO.1事業の集積



これら基幹事業の成長を支えてきたのは、クラレグループが独自に開発してきた基盤技術です。国産初の合成繊維ビニロン、その原料であるポパール、ポパールから派生させたエパールは、酢酸ビニルチエンンとして有機的に結びついた技術開発により発展してきました。また、世界トップの人工皮革ヘクラリンは繊維の技術と樹脂の技術の融合から生まれ、医薬中間体やエラストマー等様々な化学品を生み出すイソプレンケミカルは、文字通り高分子化学の粋を駆使して成長してきました。

コア事業・戦略領域への経営資源の集中投入(04・05年度稼働案件)

| 製品 | 生産量(増加分) | 場所 | 稼働年月日 |
|-------------|----------------------|----|---------|
| ポパール | 20,000t | 欧州 | 2005/01 |
| 光学用ポパールフィルム | 1,500万m ² | 日本 | 2005/03 |
| | 1,500万m ² | 日本 | 2005/07 |
| メタクリル樹脂 | 20,000t | 日本 | 2004/01 |
| メタクリル樹脂シート | 5,000t | 日本 | 2004/04 |
| | 3,000t | 中国 | 2005/07 |
| オプトスクリーン | 180万枚 | 日本 | 2004/04 |
| 〈ジェネスタ〉 | 2,000t | 日本 | 2004/07 |
| 〈エパール〉 | 12,000t | 欧州 | 2004/10 |
| | 24,000t | 米国 | 2006/03 |
| 熱可塑性エラストマー | 4,000t | 日本 | 2005/01 |
| 活性炭 | 4,000t | 日本 | 2004/06 |
| | 2,000t | 中国 | 2005/04 |

マーケットインの発想を重視

「G・21」策定時、「国際競争力」を有する事業をさらに成長させるためには、何が必要なのかを考えました。現在のよう環境変化が激しい時代には、良いものを安くつくるというプロダクトアウト的な発想だけでは、市場のスピードに遅れをとってしまうので、独創的な技術開発力を活かして、市場が求めるものを素早くつくるマーケットインの発想を重視することとし、①IT、②環境フレンドリー、③環境事業、④メディカルの4つの市場を戦略領域に選定しました。

これら4領域で展開しているクラレグループ製品の売上高営業利益率は、平均で約20%と高い収益率をあげており、経営資源を重点投入することによって今後の更なる成長拡大を見込んでいます。

中期経営計画達成へ向け、マーケットイン展開を加速

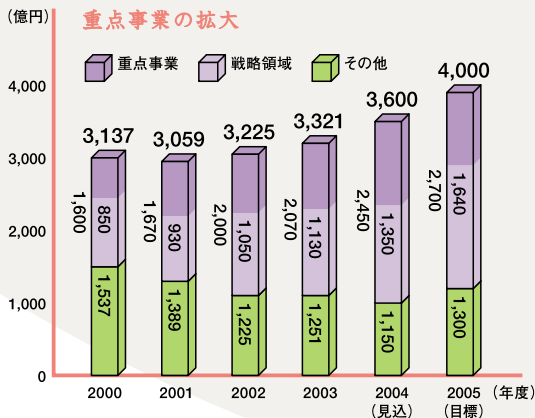
マーケットインの発想を重視し、事業展開を進めていくなかで、「戦略領域」の売上高は五年間で二倍近くの成長が予想されます。特に、IT領域や環境フレンドリー領域での伸びが著しく、両領域では液晶偏光フィルム用のポバールフィルムや、自動車ガソリンタンク用途等で伸長している(エパール)等の設備を増強中であり、さらなる成長が期待できます。これらの分野では、製品設

| 戦略領域 | 主要製品 | 具体例 |
|--------------|---|--|
| IT | 光学用ポバールフィルム 光学用メタクリル樹脂 オプスクリーン (ジェネスタ) | ポバール・メタクリル等光学特性に優れた素材の表示装置用途の展開加速 耐熱・耐摩擦性を生かした電子部品材での拡大 |
| 環境 フレンドリー | FRC用ビニロン (エパール) 熱可塑性エラストマー | アスベスト代替用途の拡大 ガソリンタンク用途・PVDC代替の拡大 加硫ゴム、塩ビ代替の拡大 |
| 環境事業 | 工業膜 活性炭 | 水処理、空気清浄分野での拡大 |
| メディカル | 歯科材料 医療器材 | 歯科材料の海外展開加速 |

計や生産技術の向上に加え、顧客への木目細かい技術サービスを提供しており、圧倒的なシェアを維持しています。

また、研究開発部門でも、このマーケットインの発想を生かしています。二〇〇三年三月に発足させたオプトデバイス商品開発センターでは、ポバールやメタクリル等の社内カンパニーの枠を超え、IT市場の中でも特に光学関連市場に焦点を当てた開発を行っています。

ます。二〇〇四年四月に本格オープンしたクラレ・リサーチ・アンド・テクニカルセンター(米国テキサス州)では、食品包装市場向けを中心とした新しいガスバリア材の開発に注力しています。どちらの研究機関でも、技術スタッフがユーザーと直接情報交換を行いながら開発を進めているため、市場ニーズに迅速に対応する機動力が発揮できると期待しています。オプトデバイス商品や新規ガスバリア材は戦略的研究開発テーマに指定、開発スピードを加速し、いくつかの製品は「G・21」期間中に市場投入する予定です。こうした取り組みが中期経営計画達成に結びつき、さらにその後の成長を牽引していくよう、クラレグループを挙げて、一層努力していく所存です。



ITマーケットでの展開

現在、IT (Information Technology) 情報技術) は私たちの生活の隅々まで行きわたり、その技術の進歩とともにパソコン、コンピュータをはじめとしたIT製品や、デジタル家電製品の出荷台数は年々増加しています。当社は、この最先端技術を支えるために必要不可欠な部材(光学関連部材、電子機器用材料)を開発・生産しています。

光学関連部材

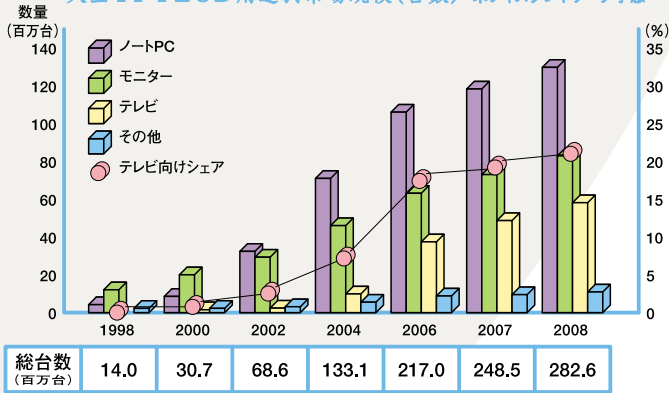
光学分野は今後も高い成長が見込まれ、また同時に変化の激しい分野でもあります。

当社はこの光学分野において、液晶画面に使用されるポリアルフィルム、リアプロジェクションテレビ画面に使用されるオプトスクリーンで大きな存在感を示しています。「G・21」が策定された二〇〇〇年度に比べ、二〇〇四年度の当社のこの分野での売上は、二倍以上を見込んでいます。

市場ニーズの変化に迅速に対応できるよう、この分野に特化した研究開発機関(オプトデバイス商品開発センター)を開設し、また拡大する需要に沿って、光学用ポリアルフィルム及び

光学用メタクリル樹脂やオプトスクリーンの生産設備増設など、積極的な設備投資を行っています。

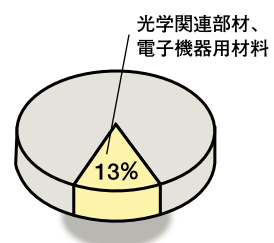
大型TFTLCD用途別市場規模(台数) *ディスプレイサーチ予想



液晶ディスプレイテレビ
リアプロジェクションテレビ

売上高比率

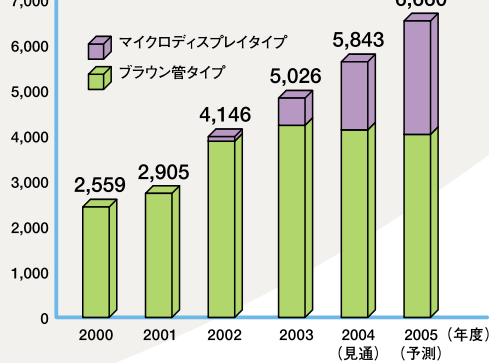
04年度予想売上高 3,600億円



LCD(液晶ディスプレイ)市場は、ノートパソコンや液晶モニターの需要拡大に加えて、液晶テレビの急激な立ち上がりにより、年率三〇〜四〇%近い伸びが続くと見られ、二〇〇七年には八兆円を超える見込みです。それに伴い当社光学用ポリアルフィルムの需要量も同様に拡大していくと見込んでいます。

また、オプトスクリーンが使用されるリアプロジェクションテレビの市場も年々増加していくものと見込まれます。

リアプロジェクションテレビ市場の予測 当社予想



さらに当社は、光学特性に優れたメタクリル樹脂を使用し、LCDの光を画面に均一に広げる導光板、効率的に光を拡散させる拡散板、画面保護と蛍光灯等の映りこみ防止機能を併せ持つ前面板などを商品化しています。

さらに今般、マイクレンズ構造を持った拡散フィルムと導光板を一体化した機能複合型の新しいバックライト部品の開発に、世界で初めて成功しました。これによりバックライトの薄型化が可能になり設計自由度が高まる事と、シートレス構成であるため生産時の組立工程を省略できる点も高く評価されており、これから市場に積極的に提案してまいります。

電子機器用材料



〈ジェネスタ〉

パソコン・デジタルカメラ・携帯電話などの電子機器では、ジェネスタが、モリ―接続用や充電用の差込口のコネクタとして

幅広く使用されています。

〈ジェネスタ〉は当社が世界で初めて工業化した独自モノマーであるノンジアミン(ナイロン原料の一つ)を使用した耐熱性ポリアミド樹脂です。耐熱性(融点三〇六℃)に加え、低吸水性(吸水による寸法の変化や機械物性の

低下がほとんどない)、耐摩擦性、耐薬品性などに優れており、表面実装技術の普及が進んでいる電気・電子部品の鉛フリーハンダ対応の高耐熱材料として需要が拡大しています。

この分野は需要の拡大期にあり、当社は他素材との差別化によって市場でのメインプレーヤーを目指しています。二〇〇四年度の売上見込みは二〇〇〇年度対比で約十倍の伸びとなっております。

今後はさらに、自動車のエンジンルーム内のベアリングテナー、各種ギアなど耐熱性に加え、高耐摩擦性が求められる分野での採用も期待されています。

*1. プリント基板の表面にLSIチップなどの電子部品を直接ハンダ付けする技術。

*2. ハンダに含まれる鉛による汚染、人体への影響が問題になっており、鉛を使用しないハンダへの移行が進んでいる。



〈ベクルス〉

また、当社では火星探査機のエアバックにも使用された、高強力ポリアリレート繊維〈ベクトラン〉と同じ液晶ポリマー

を使用した、次の様な新しい電子機器用材料を開発しています。

〈ベクルス〉 液晶ポリマー樹脂をメルトブロー法(溶融ポリマーをメッシュに吹き付けてシート化する製法)で不織布にしたものです。

今年6月に開発し、プリント配線基板用途に採用され始めました。

既存材料のアラミド繊維・ガラス繊維・ポリイミドには出せない①「非吸水性」②「低誘電率」③「低誘電正接」という三つの特性を同時に発揮し、高速大容量のデータ通信の安定化に寄与します。

〈ベクスター〉 液晶ポリマーをクラレ独自の分子配向制御技術により、等方化したフィルムで情報機器の小型化・薄型化・大容量化が求められる通信機器などのプリント回路基板(フレキシブル配線基板)に採用されています。

〈ベックリー〉 液晶ポリマーを芯とする二層構造のモノフィラメントです。この繊維でつくるスクリーン印刷基布は、高強度で破れにくく、寸法安定性に優れているのが特徴です。連続で大量に印刷してもゆがみが少ないため、大型のPDP(プラズマディスプレイ)をはじめとするFPD(フラットパネルディスプレイ)などの高精度印刷に適しています。

このように耐熱性、寸法安定性、耐久性など優れた特性をもつ当社の液晶ポリマーは、電子機器市場での技術進歩に貢献しています。

環境関連マーケットでの展開

二十一世紀は環境の世紀といわれており、地球環境への関心の高さは年々高まっています。当社は従来より「環境」を考慮した製品・生産技術の開発を行ってきました。当社の環境関連事業は、

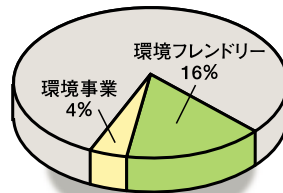
① 環境負荷を低減させる **環境フレンドリー事業**

② 環境汚染物質を浄化する **環境事業**

に分類することが出来ます。

売上高比率

04年度予想売上高 3,600億円



環境フレンドリー製品とは

環境負荷が少ない商品の開発は、化学メーカーとしての命題でもあります。当社は下記のような、環境負荷が低い製品群を展開しています。

| 当社製品 | 代替対象・用途 |
|---------------------------|--|
| ビニロン | 石綿(アスベスト) セメント補強材として、曲げ強度、衝撃強度の向上に効果を発揮します。従来、セメントの補強材として使用されていた石綿は、欧米諸国・米国などで使用禁止が進んでいます。2004年10月には日本でも使用禁止となりました。 |
| <エパール> | ガソリントank・揮発防止 自動車のプラスチック製ガソリントank (PFT=Plastic Fuel Tank) は、汎用樹脂の間に気体遮断性樹脂<エパール>が挟まれた多層構造となっており、<エパール>層がタンクからの炭化水素の揮発を防いでいます。PFTにより①軽量化できる ②自由な形に成形しやすく狭いスペースを最大限に利用できる ③サビの心配がなくサビ防止の鉛コートが不要 というメリットがあります。 |
| 熱可塑性 エラストマー <セプトン> | 金属成形品 など 車のバンパーやホイールキャップに使用され、従来の金属での代替材料として軽量化、省エネルギーに貢献しています。 |
| 熱可塑性 エラストマー <ハイブラー> | 可塑剤を使用しているプラスチックなど<ハイブラー>は可塑剤を使用しなくても柔軟性に優れており、医療用チューブなど、従来の素材では可塑剤の漏出が懸念される用途で、置換が進んでいます。 |
| 工業用洗剤 <ファイントップ> | フロン・エタン代替洗剤 イソブレン系グリコールエーテルを中心とする洗剤で、多種多様の汚れに対応出来ます。低毒性・低臭気の製品で労働安全衛生法、大気汚染防止法、PRTR法にも非該当な商品です。 |

環境事業製品とは

環境汚染物質を浄化させる機能をもつ素材としては、PVAゲル〈クラゲール〉や工業膜（中空糸膜）、活性炭などがあります。

| | | |
|-------|---|---------|
| PVAゲル | … | 水質浄化 |
| 工業膜 | … | 水質浄化 |
| 活性炭 | … | 水質・空気浄化 |



□ 4mm

〈クラゲール〉（菌固定担体）は、ポバール（PVA）樹脂でできた白く小さな球体で、きわめて微細な網目状構造を持ち、一粒の中に10億個ものバクテリアが棲みつくことができます。このバクテリアの働きで産業廃水や生活廃水をきれいにし、自然に戻すことができます。従来法に比べ、コンパクトな設備で効率的な処理が行えるため、一般家庭の合併浄化槽、工場の廃水施設、さらに下水処理場にも普及が期待されています。

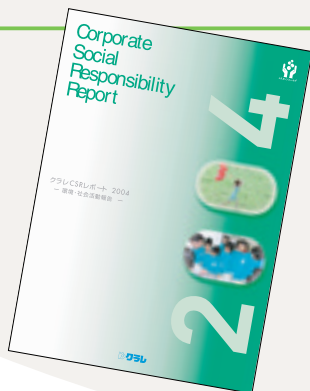


活性炭は石炭や椰子殻などの炭素物質を原料として、高温でガスや薬品と反応させて製造されます。無数の微細な孔（直径10～200Å）（注：10Å＝1nm）が炭内部に網目状に形成されており、大きな表面積（500～2500m²/g）を持つ孔の壁面に種々の物質を吸着します。良く知られている用途には浄水、排水処理、空気の浄化などがありますが、他に自動車の排気システムにも採用されています。自動車やガソリンスタンドより放散されるガソリン蒸気を活性炭で捕集し、自動車の走行中に空気で脱着させ燃焼させるシステムです。クラレケミカル（株）はこのような吸着－脱着を繰り返す独自の細孔分布を持たせた技術を独自に開発しました。また、ガソリンに頼らない次世代の自動車用の蓄電池（キャパシタ）としての活用も見込まれています。



中空糸膜の糸表面の微細な孔で目に見えない微粒子を大きさによってふるい分けします。分離対象物質に応じて、この表面にある孔の大きさを調節することが出来ます。今夏、水泳プール等での循環ろ過システム「〈メガフロー〉Fシリーズ」の本格販売を開始しました。従来の濾過システムは、装置が大きく操作が面倒な上、濾材の交換時には多量の使用済みの砂や珪藻土の廃棄処理が必要でした。プール水の透明度を上げるために民間施設などでは凝集剤を投与する必要もありましたが、当社が開発したこの大孔径ろ過膜を活用した新技術は、その煩雑さを解消します。また〈メガフロー〉は、通常の塩素濃度による消毒では死滅しないクリプトスポリジウムを物理的に除去できることから、2004年春から東京都羽村市の浄水場（膜濾過を使用した国内最大級の浄水場）でも採用されています。

クラレグループでは、製品開発だけでなく、全ての事業活動において環境に配慮した取り組みを行っています。



詳しくは、2004年度版CSRレポート、ホームページ（<http://www.kuraray.co.jp/csr/report/index.html>）をご覧ください。

当CSRレポート（環境・社会活動報告書）をご希望の方は巻末のアンケートはがきで、クラレIR・広報室までご連絡ください。後日、郵送させていただきます。

クラレの情報が
一目でわかる

クラレ トピックス

4月

米国の研究開発拠点 KRITC(USA)が本格オープン

エバールカンパニー・オブ・アメリカ社(テキサス州パサデーナ)の敷地内に米国での研究開発拠点KRITC(USA)(クラレ・リサーチ・アンド・テクニカルセンター)を本格的にオープンしました。新規ガスバリア材・エラストマーの開発に加え、コーポレートの視野の研究開発も行っています。

中国に人工皮革合併会社を設立

中国最大の合成皮革メーカーである浙江禾欣実業股份(セッコウヘーシンジツギョウシンブン)有限公司と合併で、人工皮革の生産会社を中国に設立することに合意しました。二〇〇五年春から年産四百万²mの設備稼働を目指します。

5月

プリント配線基板用不織布(ベクルス)を開発

優れた耐熱性、非吸水性、低誘電特性を持ち、IT基材・重電絶縁材・航空機ハニカムなど広範囲な部材に応用できる新素材として、不織布(ベクルス)を開発。本格販売を開始しました。

可楽麗化学(寧夏)

環境化工有限公司の設立

クラレケミカル株は活性炭の旺盛な需要増加を受け、中国・寧夏回族自治区に産する石炭資源を用いた活性炭製造のため、二〇〇%出資の現地法人可楽麗化学(寧夏)環境化工有限公司



メタクリル系熱可塑性エラストマーの量産技術確立

透明度が高く薬品や傷にも強いメタクリル樹脂は、その「硬さ」から柔軟性が求められる材料には適していませんでしたが、当社は手で曲げたり伸び縮みさせることの出来るメタクリル系エラストマーを開発しました。これにより、メタクリル特有の透明性に加え、柔軟性に富んだ製品が実現できます。この新素材のパイロットプラント(年産三〇〇t)を七月に設置し、本格的なマーケティングを開始しました。



透明性と柔軟性を兼ねそなえた“曲がる”アクリル樹脂

機能性繊維が金メダリストの靴に

アテネ五輪女子マラソンで金メダルに輝いた野口みづき選手。その走りを支えたアシックス製シューズには当社^{*1}ベースマスタール(UV^{*2}ヘクスモ)が使用されています。また、日本競技団が現地で使用したシューズは、当社[†]ヘクスモを使用したタイプです。



野口みづき選手がオリンピックで使用した靴

*1ヘクスモ(スターUV)は吸汗速乾性ポリエーテル繊維。
*2ヘクスモは紫外線熱線遮断のポリエーテル繊維。

(資本金二・五億円)を設立しました。初年度は「〇〇〇トン/年、四〇五年後には五、〇〇〇トン/年へ生産能力を引き上げていく予定です。

〔耐熱性ポリアミド樹脂(シエネスタ)の生産設備を増設

耐熱性、低吸水性、摺動性、耐薬品性などの優れた特長を持ち、電子部品や自動車部品用途で注目されている新規ポリアミド樹脂(シエネスタ)の主要原料であるノナンジアミンの生産増強工事を完了し、(シエネスタ)の生産拡大体制(三、〇〇〇トン/年)を整備しました。

7月

〔Eバール〕事業の米国での増設を決定

EVOH樹脂(Eバール)の世界的な需要拡大に対応するため、Eバールカンパニー・オブ・アメリカ社に年産二四、〇〇〇トンの設備を増設することを決定しました。この増設により、岡山事業所、Eバールヨーロッパ社(ベルギー)を含めた日米欧三極合計で、二〇〇六年度には年産八、〇〇〇トンの生産能力まで拡大します。



場 所…米国 テキサス州 パサディナ
生産能力…現状 年産 二三、〇〇〇トン
決定分… 年産 二四、〇〇〇トン
完工時期…二〇〇四年九月着工・二〇〇六年三月完工予定

8月

偏光フィルム向けポパールフィルム生産設備の大幅増強を決定

ポパール(ポリビニルアルコール)フィルムは、透明性、染色性、帯電防止性、延伸性などに優れ、LCD(液晶ディスプレイ)の主要部材である偏光フィルム向けに最適な素材として、世界市場をほぼ独占しています。現在ノートパソコンや液晶テレビの台数増加および画面の大型化、液晶モニターの伸長などに伴い、需要が急拡大しており、(特集2 p.5)参照下さい)クラレ玉島株(岡山県倉敷市)においてLCDの大型化と高度な品質要求に対応する生産設備を増設(年産+三、〇〇〇万²m)します。二〇〇五年七月の完工後は、クラレ西条株の設備能力を合わせ、現在のほぼ二倍にあたる年産六、一〇〇万²mの生産能力となります。

9月

「第二回(パーカッショ)美脚大賞」を開催

当社は透湿・通気性に優れた高級人工皮革(パーカッショ)の良さを生かした靴づくりを目的に、有力靴メーカー五社と「パーカッショクラブ」を結成しています。同クラブが主催するイベント「パーカッショ美脚大賞」が九月に東京で開催されました。第二回目となる今年度は二〇代、三〇代、四〇代の各世代から、それぞれ相沢紗世さん(女優)、飯島直子さん(女優)、高樹沙耶さん(女優)の三人が大賞に選ばれました。受賞者へは美脚の榮譽を讃え、受賞者の脚に応じた特注のパーカッショ靴が贈呈されました。



第2回美脚大賞受賞者

*カルツェリアホソノ
ウッドハウス/イナバノ
バス/エースコーポレー
ション

JAL「クラスJ」のヘッドレストカバーにヘクラフレックスが採用

日本航空が国内線に導入しているサービース「クラスJ」。そのヘッドレストカバーにクラレの不織布ヘクラフレックスが採用され、快適な空の旅をサポートしています。



赤いヘッドレストカバーが採用されています。

中間連結損益計算書の要約

| 負債の部 | 当中間期 ^{*1} | 前期 ^{*2} | 増減 |
|-----------------|--------------------|------------------|-----|
| 流動負債 | 710 | 752 | △41 |
| 支払手形及び買掛金 | 374 | 386 | △12 |
| 短期借入金 | 43 | 53 | △10 |
| その他 | 293 | 312 | △19 |
| 固定負債 | 409 | 377 | 32 |
| 長期借入金 | 69 | 35 | 35 |
| その他 | 340 | 342 | △2 |
| 負債合計 | 1,120 | 1,129 | △9 |
| 少数株主持分 | 当中間期 ^{*1} | 前期 ^{*2} | 増減 |
| 少数株主持分 | 22 | 1 | 21 |
| 資本の部 | 当中間期 ^{*1} | 前期 ^{*2} | 増減 |
| 資本金 | 890 | 890 | — |
| 資本剰余金 | 872 | 871 | 0 |
| 利益剰余金 | 1,354 | 1,271 | 82 |
| その他有価証券評価差額金 | 74 | 79 | △5 |
| 為替換算調整勘定 | 14 | 8 | 5 |
| 自己株式 | △118 | △117 | △1 |
| 資本合計 | 3,084 | 3,003 | 81 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 4,226 | 4,132 | 94 |

(株)岡山臨港を新規連結対象にしたことに因ります。

(単位:億円)
^{*1}:2004年9月30日現在
^{*2}:2004年3月31日現在

| 科目 | 当中間期 ^{*1} | 前中間期 ^{*2} | 増減 |
|--------------|--------------------|--------------------|-----|
| 売上高 | 1,756 | 1,613 | 142 |
| 売上総利益 | 503 | 470 | 33 |
| 販売費及び一般管理費 | 335 | 332 | 3 |
| 営業利益 | 167 | 137 | 30 |
| 営業外収益 | 30 | 15 | 15 |
| 営業外費用 | 38 | 28 | 10 |
| 経常利益 | 159 | 124 | 35 |
| 特別利益 | 1 | 22 | △20 |
| 特別損失 | 2 | 19 | △16 |
| 税金等調整前中間純利益 | 158 | 127 | 31 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 53 | 45 | 8 |
| 法人税等調整額 | 6 | △1 | 8 |
| 少数株主損益 | (減算)0 | (減算)0 | 0 |
| 中間純利益 | 98 | 83 | 15 |

内訳(前中間期比)

- 化成品・樹脂 +67億円
- 繊維 +19億円
- 機能材料・メディカル他 +56億円

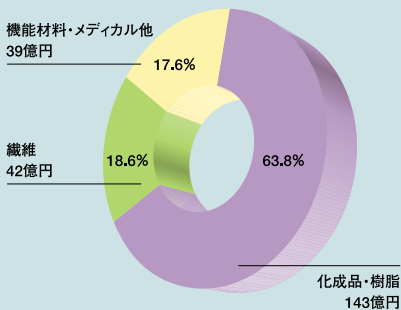
内訳(前中間期比)

- 化成品・樹脂 +26億円
- 繊維 +14億円
- 機能材料・メディカル他 △2億円
- 全社共通費用 △8億円

(単位:億円)
^{*1}:2004年4月1日～2004年9月30日
^{*2}:2003年4月1日～2003年9月30日

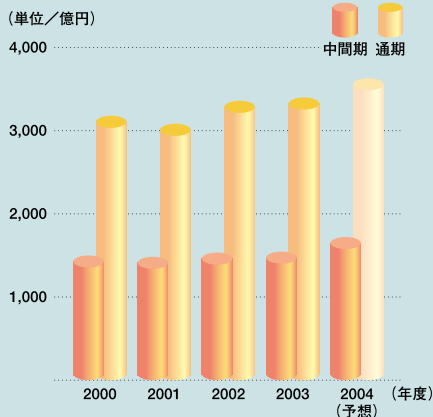
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は億円未満を四捨五入しています。

セグメント別営業利益構成比(連結)

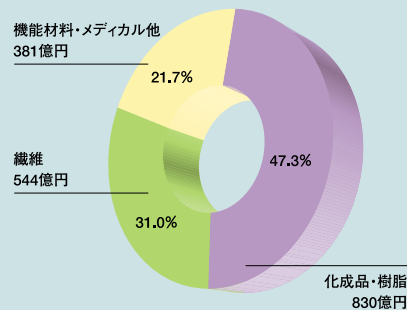


*全社共通費用(57億円)は各セグメントには配賦していません。

売上高(連結)



セグメント別売上構成比(連結)



中間連結キャッシュ・フロー計算書の要約

| 科目 | 当中間期 ^{*1} | 前中間期 ^{*2} |
|-------------------------------|--------------------|--------------------|
| 1.営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 | 158 | 127 |
| 減価償却費 | 102 | 98 |
| 法人税等の支払額 | △39 | △49 |
| その他営業活動による支出 | △18 | △47 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 203 | 129 |
| 2.投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形・無形固定資産の取得による支出 | △167 | △140 |
| 投資有価証券の純減少額 | 36 | 21 |
| その他投資活動による収入又は支出 | △2 | 144 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △133 | 25 |
| 3.財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 借入金の純増加額又は純減少額 | 24 | △20 |
| コマーシャルペーパーの純増加額又は純減少額 | △30 | 50 |
| 社債の償還による支出 | — | △200 |
| 自己株式の純増加額 | △1 | △0 |
| 配当金の支払額 | △20 | △17 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △27 | △187 |
| 4.現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1 | △3 |
| 5.現金及び現金同等物の増加額又は減少額 | 44 | △37 |
| 6.現金及び現金同等物の期首残高 | 70 | 139 |
| 7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 11 | — |
| 8.現金及び現金同等物の中間期末残高 | 126 | 102 |

(単位:億円)

*1:2004年4月1日～9月30日

*2:2003年4月1日～9月30日

中間連結貸借対照表の要約

| 資産の部 | 当中間期 ^{*1} | 前期 ^{*2} | 増減 |
|-------------|--------------------|------------------|-----------|
| 流動資産 | 1,731 | 1,714 | 17 |
| 現金及び預金 | 126 | 70 | 56 |
| 受取手形及び売掛金 | 813 | 829 | △16 |
| 有価証券 | 70 | 84 | △14 |
| 棚卸資産 | 609 | 619 | △10 |
| その他 | 123 | 121 | 2 |
| 貸倒引当金 | △8 | △9 | 0 |
| 固定資産 | 2,495 | 2,418 | 77 |
| 有形固定資産 | 1,501 | 1,379 | 123 |
| 建物及び構築物 | 349 | 340 | 9 |
| 機械装置及び運搬具 | 641 | 627 | 13 |
| 建設仮勘定 | 275 | 210 | 66 |
| その他 | 236 | 202 | 35 |
| 無形固定資産 | 282 | 302 | △20 |
| 投資その他の資産 | 711 | 737 | △26 |
| 投資有価証券 | 243 | 280 | △38 |
| その他 | 482 | 470 | 13 |
| 貸倒引当金 | △14 | △13 | 0 |
| 資産合計 | 4,226 | 4,132 | 94 |

棚卸資産:
着実な在庫圧縮により、在庫月数を2.1ヶ月にしました。

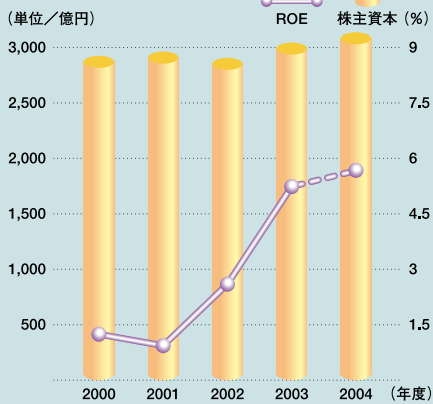
設備投資+157億円、減価償却△102億円、新規連結他+47億円により有形・無形固定資産は前期比+102億円となりました。

(単位:億円)

*1:2004年9月30日現在

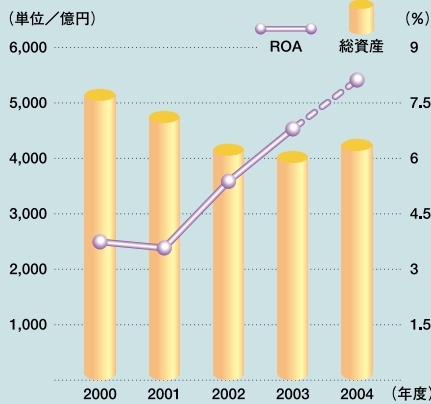
*2:2004年3月31日現在

株主資本・ROE (連結)



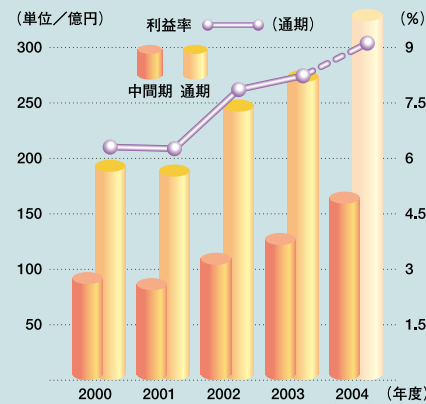
* ROE (株主資本当期利益率)
= 当期利益 ÷ 期首・期末平均株主資本 × 100 (%)
* 2004年度中間期のROEは、
通期の当期利益見通しに基づき算出しています。

総資産・ROA (連結)



* ROA (総資産利益率)
= 営業利益 ÷ 期首・期末平均総資産 × 100 (%)
* 2004年度中間期のROAは、
通期の営業利益見通しに基づき算出しています。

営業利益・営業利益率 (連結)

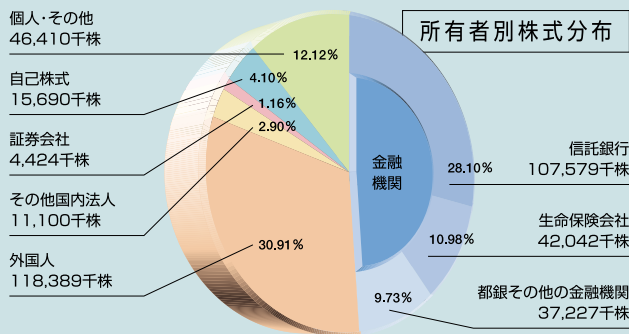


* 営業利益率
= 営業利益 ÷ 売上高 × 100 (%)

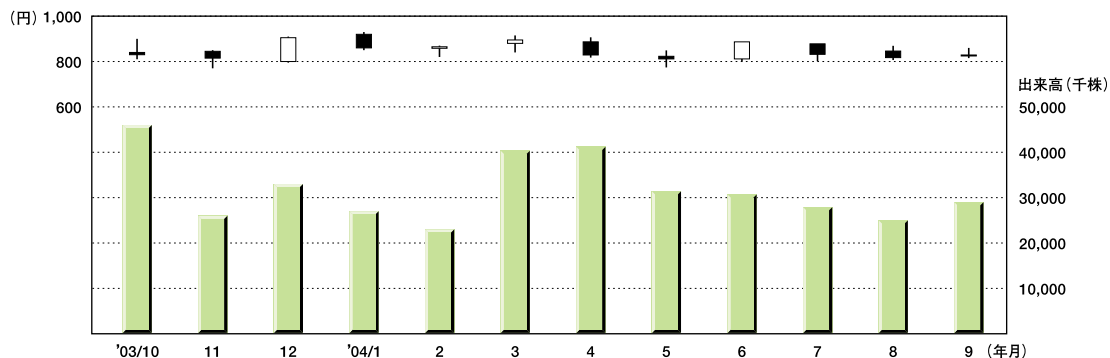
会社が発行する株式の総数 700,000,000 株

発行済株式の総数 382,863,603 株

株主数 28,126 名



株価・出来高の推移チャート

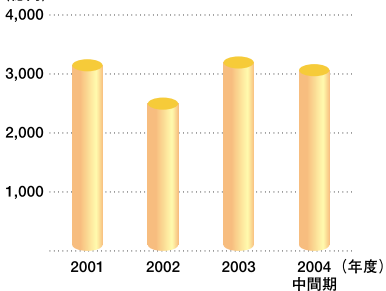


株価の推移 (単位:円)

* 最高・最低株価は東京証券取引所における市場相場による。

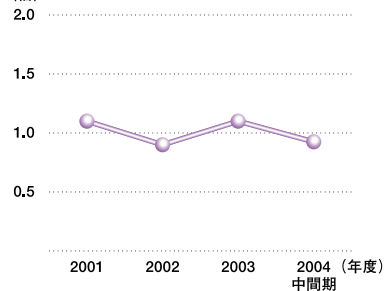
| 株価 | 年月 | 2003年 10月 | 11月 | 12月 | 2004年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|----|----|--------------|-----|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 最高 | | 902 | 850 | 908 | 929 | 868 | 914 | 900 | 848 | 893 | 895 | 867 | 860 |
| 最低 | | 809 | 770 | 794 | 852 | 819 | 839 | 825 | 770 | 817 | 816 | 818 | 815 |

時価総額 (期末)
(億円)



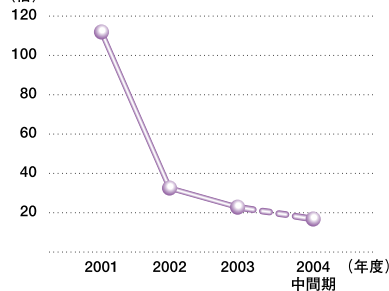
* 時価総額=期末株価×期末発行済株式総数

PBR (株価純資産倍率)
(倍)



* PBR=期末株価÷(期末株主資本÷期末発行済株式総数)

PER (株価収益率)
(倍)



* PER=期末株価÷(当期利益÷期中平均発行済株式総数)
* 2004年度中間期のPERは、2004年9月末日の株価、期中平均発行済株式総数、通期の当期利益見通しに基づき算出しています。

株主の皆様とのコミュニケーションの一環としてアンケートを実施しています。以下に、123期 事業報告書にお寄せいただいたご意見、ご質問の一部を掲載させていただきます。

Q. 中国ビジネスには、どのように取り組めますか？

A. 当社の主力製品は、スペシャリティに富んだ高付加価値の化学品であるため、日米欧等の先進国が主な市場です。中国では沿岸部を中心に高所得者の消費者層が形成されつつあり、今後は当社の製品の販売市場として有望と見ております。

さらにビジネスのインフラが整えば現地で主力事業を展開することも視野に入れますが、現時点では「適地生産・適地販売」の基本方針の下に中国特有のリスクを見極めている段階にあります。

尚、グループ企業を中心に各事業の特性に応じて、人工皮革（現地企業との合弁）、メタクリル樹脂シート、活性炭、面ファスナー、衣料縫製などの事業に着手しております。

Q. 社会貢献活動はどのようなことをしていますか？

A. 当社は独創的な技術で新たな事業を創成し、すぐれた製品やサービスを通じて社会に貢献することを基本的な使命と考えています。同時に、事業活動を通じて深い関わりを持つ地域社会を中心に、教育、医療、福祉などの分野において交流活動や貢献活動に力を注いでいます。例えば、実験を通じて子供たちに“化学の楽しさ”を知ってもらう活動として1992年に開始した「少年少女化学教室」は、全国5事業所で計120回以上の開催実績を持っています。

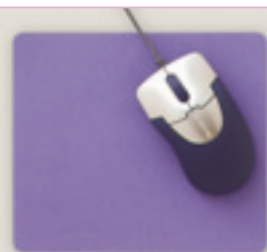


また、社員が給料の端数を積み立て、さらにその同額を会社が拋出し、地域の福祉に役立ててもらう「クラレふれあい募金」なども行なっています。

アンケートご協力をお願い

「クラレ通信」をご覧いただき、ありがとうございます。今後も皆様からのご意見、ご感想を賜りながら、株主の皆様とクラレグループを結ぶコミュニケーションツールとして育てていきたいと思っております。つきましては添付のアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。ご回答いただいた方にはエレコム（株）のマウスパッド（素材：〈クラリーノ〉）をプレゼントいたします。今後も一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。なお、勝手ながらアンケートは12月31日（消印有効）に締め切らせていただきます。

カラーはパープル、ネイビー、ブラック、グレーの4色を揃えてございますが、商品の発送につきましては、ご希望のカラーに沿えない点をご了承ください。



スエード調マウスパッド 〈クラリーノ〉 素材
サイズ：160mm×140mm



株 主 メ モ

| | |
|-------------|---|
| 決 算 期 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月下旬 |
| 株 主 確 定 日 | 定時株主総会・利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 |
| 公 告 掲 載 新 聞 | 日本経済新聞 決算公告については公告掲載新聞に代えて 当社ホームページに掲載しています。 http://www.kuraray.co.jp/ |
| 名義書換代理人 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 〒540-8639 |
| 事 務 取 扱 場 所 | 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417 |
| 同 取 次 所 | 住友信託銀行株式会社 全国各支店 |
